Oh

広がる日中交雑 在来種ピンチ

国内最大の両生類オオサンショウウオ。特別天然記念物の在来種と中国から輸入された外来種が交配した「交雑種」が三重県名張市など で次々と見つかっている。京都市の調査では9割以上が交雑種と判明した河川もある。在来種が絶滅する恐れがあり、行政や研究機関が交雑種を捕獲して隔離する地道な活動を行っている。（帯田祥尚、岡屋京佑）

サンショウウオ

オオサンショウウオ保護活動の取材動画はこちらから。

特別天然記念物　文化財保護法に基づく天然記念物の中でも特に重要な動植物、地質、鉱物、保護区域。動物では1952年指定のオオサンショウウオの他にイリオモテヤマネコ、カモシカ、コウノトリ、ライチョウなど。捕獲や飼育が禁止されている。

名張で捕獲・隔離の保護活動

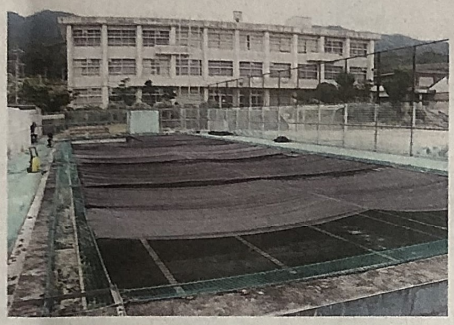
名張市の廃校になった小学校のプールでは現在、市が川で捕まえたオオサンショウウオ百八十匹を隔離している。体色は黒や茶で、体長は大きいもので一㍍ほど。DNA鑑定待ちの個体もいるが、ほとんどが中国の外来種との交雑種と判明している。

交雑が進んだのは、日本と中国が国交を回復した一九七〇年代からという。食用として中国から輸入した外来種が野生化し、自然界で人知れず繁殖を続けたためとされる。後にワシントン条約の保護対象となって国際間商業取引が禁止され、今では外来種自体が見つかることはまれ。だが、交雑種は名張市など三重と奈良の県境の川や岡山県でも確認されており、交雑の連鎖に歯止めがかからない。

特に深刻なのは京都市を流れる鴨川水系だ。市文化財保護課によると、二〇一一年以降の調査で90％以上が交雑種と判明している。現在用いられるDNA鑑定の方法を確立し、調査にも協力した国立科学博物館の吉川夏彦研究員(三)は「自分が見慣れていたオオサンショウウオが、実は交雑種と分かった時はショックだった」と振り返る。

このため、交雑種の捕獲と隔離を各地の行政と研究機関が進める。野生のオオサンショウウオを一匹ずつ捕まえ、全てにID代わりのマイクロチップを挿入。採取した尾の一部からDNA鑑定をして交雑種や外来種と分かれば、野生に戻さず、専用の施設に収容する。名張市の場合、百八十匹の年間飼育費に五十万円を費やすが、オオサンショウウオは五十年以上生きるとされ、施設の維持や費用面から、いつまで飼育できるかは分からない。

三重県松阪市に事務局がある日本オオサンショウウオの会で保護活動に携わる清水善吉さん(六三)は「二〇〇〇年代にDNA鑑定ができるようになるまで、交雑種という概念がなかった。これだけ広まると、交雑の流れを止めるのにどれだけの年月がかかるか分からない」と懸念する。



上オオサンショウウオの交雑種を飼育するプールがある名張市郷土資料館　下プールで隔離飼育される交雑種＝いずれも三重県名張市で

オオサンショウウオの体長などを測る川内さん＝名張市の滝川上流で

暗闇の中 成長を記録

記者2人 調査同行

自治体はオオサンショウウオの調査や捕獲を外部の専門機関に委託する場合もあり、ボランティアも活躍。その一人、三重県名張市の職員川内彬宏さん(三)は公務ではなくプライベートで携わる。九月中旬の夜、国の許可を得て行う調査に記者二人が同行した。

赤目四十八滝を中心とした市内の渓谷は有名な生息地。夜行性のオオサンショウウオが姿を現す午後七時半、足首がつかる程度の浅瀬に入った。暗闇の中、せせらぎが響く川面を懐中電灯で照らして歩くこと約十分。川底の岩が動いたように見えた。目を凝らすと、水中に体の輪郭が浮かび上がる。

「おー、いる」。記者の一人が声を上げた。体長六〇㌢ほど。茶色の肌に黒い斑紋が広がる。光を当てても動じず、水中の岩の上をゆっくりと歩く。行く手に捕獲用のたも網を差し出すと、自分から入ってくるほど警戒心が薄い。「人に襲われたことがないので逃げない」と川内さん。

捕まえたのは、既に左肩にマイクロチップが埋め込まれた在来種だった。機械で読み取ると、川内さんが一年四カ月前に出合った個体と分かった。川岸に計測器を広げて成長を記録し、捕獲した場所に放した。

この日は午後九時ごろに終えたが、翌日午前二時まで川の中で過ごすこともあるという。新しい個体がいれば、DNA鑑定のためにネットに入れて持ち帰る作業も加わる。重労働のため、誰もができるわけではない。しかし、交雑化にあらがうすべは他にない。「放っておけば、みんな交雑種になってしまう」。川内さんは警鐘を鳴らす。

医療法人前理事長に1億円

日大背任事件 業者から「見返り」か

日本大学医学部付属板橋病院（東京都板橋区）の建て替え工事を巡り、背任容疑で逮捕された元医療法人前理事長の鈴木容疑者は知人に頼まれ、設計事務所を受けたとみて詳しい経緯を調べる。

関係者によると、鈴木容疑者は日大の関連会社「日本大学事業部」（世田谷区）に委託され、計四社で実施された。

鈴木容疑者は日大や事業部の職員ではないが、特捜部は井ノ口容疑者との「身分なき共犯」に当たると判断したもようだ。

河村市長の給与減 否決

名古屋市議会委 金メダル問題

名古屋市の河村たかし市長が東京五輪ソフトボール代表選手の金メダル問題で

委が審議していた。

この日の委員会では市長

焼津港カツオ窃盗逮捕

加工、運送2社の3容疑者

全国有数のカツオの水揚げ量を誇る焼津港（静岡県焼津市）で、水揚げされたカツオの一部を無断で抜き取っていたとして、焼津署や静岡県警捜査三課などは

智良(四七)＝同市田尻北＝の三容疑者を逮捕した。

署は七日朝、両社を家宅捜索し、関係書類を押収した。捜査関係者によると、焼津市場でのカツオの不正

約七十四万円相当）を同港の魚市場から盗んだとされる。カネシンJKSは仲買業者を兼ね、焼津港湾は運送を担当していた。署は認否を明らかにしていない。

関係者によると、市場で競り落としたカツオを計量する際、一部のカツオを計量せずにトラックで冷凍倉庫に運搬し、盗み出したと